

週 報

日本基督教団 翠ヶ丘教会

2025 年度年間聖句

「良い土地に蒔かれたものとは、
御言葉を聞いて悟る人」
(マタイによる福音書 13 章 23 節)



どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝 毎日曜日 午前 10 時半
子どもの教会 毎日曜日 午前 9 時～10 時
祈 祷 会 各水曜日
○昼の聖書研究祈祷会
(第3・午後 2 時)
●夕の祈祷会
(第2、第4・午後 7 時)

牧 師 井 殿 準

協力牧師 堂 本 陽 子

協力牧師 井 東 炤

〒 252-0312 相模原市南区相南 2-25-65

TEL. 0 4 2-7 4 2-1 5 9 3

FAX. 0 4 2-7 4 2-1 3 9 3

ホームページ: <http://www.midorigaoka.jp>

郵便振替口座 日本基督教団翠ヶ丘教会 本会計

0 0 2 9 0-4-8 0 7 0 7

3156 2025 年 4 月 27 日

礼 拝 式 順 序

(復活節第 2 主日)

司式者 井 殿 準

奏楽者 黒 田 理 佳

前 奏	奏 楽 者
招 詞 詩編 103:1～5	司 式 者
讃 美 歌 476 「あめなるよこび」	一 同
聖 書 マタイ 28:11～15 (新 P. 60)	司 式 者
使徒信条 (93-4-A)	一 同
祈 祷	司 式 者
讃 美 歌 290 「おどり出る姿で」(1,4,5 節)	一 同
説 教 「それでも私は信じる」	司 式 者
祈 祷	〃
讃 美 歌 326 「地よ、声たかく」	一 同
献 金	〃
主の祈り (93-5-A)	〃
頌 栄 26 「グローリア、グローリア、グローリア」	〃
祝 祷	司 式 者
答 唱 40-6 「アーメン」	一 同
～「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう～	
報 告	司 式 者
讃 美 歌 92 「主よ、わたしたちの主よ」	一 同

- ・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
- ・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
- ・FM電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。
- ・マスクの着用は個人の判断にお任せいたします。ご心配な方はマスクを着用してください。

先週の説教要旨

「走り出せ 走り出せ」

(マタイ 28:1～10)

主イエスの葬られた墓を訪ねた二人のマリアたちは、天使から主が復活なさったこと、弟子たちに復活の主が待つガリラヤに行くように伝えることを命じられ、弟子たちのもとに向かって行く。

この時、彼女たちはまだ復活した主イエスとは出会っていない。おそらく彼女たちは主イエスが復活なさったことをにわかに信じることはできなかったに違いない。しかし、彼女たちは、天使の言葉を聞いた時、戸惑いながらも、「それが本当だったら、嬉しいな」と、胸の内に小さな希望を抱いて、天使の言葉の通りに弟子たちのいる場所に走り出して行ったのであろう。大切なのは、半信半疑でも走り出して行くことだ。「本当だったら、嬉しいな」ということでも良いのである。

二人のマリアが走り出した様子を思い浮かべている時、「嵐」というグループの「ハピネス」という曲を思い出した。この曲で歌われているのと同じように、二人のマリアは大切な主が十字架の上で殺されてしまい、「言葉にできないほどの悲しみ」の中にいた。するとそこに天使が現れ、「あの方は、ここにはおられない。……さあ、急いで行って弟子たちに告げなさい」(「♪走り出せ 走り出せ」と彼女たちに告げ、二人のマリアは恐れながらも希望を抱いて、駆け出して行った。すると、行く手に復活した主イエスが立っていて、彼女たちの悲しみはすっかり拭われ、彼女たちは大きな喜びに溢れさせられた。

「神の力強さや神の愛、救いについては信じているが、復活についてはよく分からない」と思うのは当然のことだ。それでも良いのである。分からないながらも、希望を胸に立ち上がって行くことが肝心なのであり、そうやって走り出して行く先には、必ず復活した主イエスが待っていてくださるのである。

イースターとは、喜びに溢れて終わるだけの日ではない。その喜びを携えて、隣人のもとに出かけて行くのがイースターである(10 節参照)。復活の主との出会いを信じて走り出し、よき証し人とならせていただく。